

## INFO 1

### 新型コロナウイルス感染症対策 隔離施設の整備について

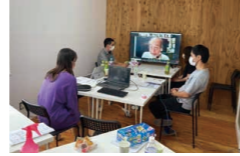
グループホーム入居者が新型コロナウイルスに感染(感染疑い含む)した際に、療養場所として使用する隔離施設を現在準備中です。Social Care Farm 野布瀬農園の住宅を改修工事し、最大7名が療養・経過観察期間に生活する場所となります。新型コロナウイルス感染症の流行状況に合わせ、隔離施設として使用しない期間は農作業の休憩場所として活用予定です。



野布瀬農園隔離施設

### 7～9月研修参加状況

- 7月3日/参加者5名  
\*職員全体へ動画配信  
「クラスターを発生させないための基本的な知識と技術を確認しよう!」
- 8月5日/参加者7名  
「ユニットリーダー向け感染症対策研修」
- 8月25日/参加者11名 \*動画閲覧27名  
公益財団法人風に立つライオン基金主催  
①感染経路の説明とデモンストレーション  
(手指消毒・PPEの着脱)  
②ゾーニング案検討  
(感染疑い事例に基づいたシミュレーション)
- 8月26日/参加者1名  
「新型コロナウイルス感染予防の最新知識と防護用品の正しい使い方」



## INFO 2

### 実りの秋 野布瀬農園

令和2年10月、野布瀬農園は2年目の実りの秋を迎えました。復旧2年目の新米と、栽培期間中農薬不使用の安心安全なじゃがいも、かぼちゃを収穫できました。野布瀬農園の実りを多くの方にお届けできるようにインターネット販売を行っております。北海道から南は沖縄九州までご購入頂いております。新米、新じゃが、かぼちゃのセット商品も販売開始しております。詳しくはQRコードよりサイト内をご確認の上、ご注文お待ちしております。



販売サイトは  
こちらから!



## INFO 3

### 北海道の米と汁 U-gohan東大正門 再開しました

今年2月にオープンした「北海道の米と汁 U-gohan東大正門」ですが、新型コロナウイルスの影響により、しばらくの間休業させて頂いておりました。オープンしてわずか2カ月間の営業でしたが、休業後も皆様からのあたたかいお言葉に支えられ、このたび再開の運びとなりました。まだ先行きが見通せない部分はありますが、こうして再び、U-gohanのお弁当を皆様に楽しんでいただけることをとてもうれしく感じています。今後もご不便・ご迷惑をおかけいたしますが、皆様に愛されるお店になりますよう努力してまいりますので、何卒よろしくお願ひ致します。



## Donation 寄付について

### ゆうゆうの活動にご支援をお願いします

#### ●社会福祉法人への寄付について

- 1 個人の場合**  
所得税の寄付金控除または税額控除が受けられます。
- 2 法人の場合**  
一般の寄付金とは別枠で、法人税法上の損金算入ができます。
- 3 相続による寄付の場合**  
租税特別措置法により相続税が非課税となることがありますのでご相談ください。  
※個人で適用を受けるためには確定申告が必要です。

#### 領収書について

寄付金控除を受けるには、「寄付金」の但し書きのある領収書が必要です。当法人発行の領収書をご希望の方は、お電話又はWEBお問い合わせフォームから依頼ください。

TEL:0133-22-2896  
<http://yu-yu.or.jp/contact/>



私たちの考え方、事業に共感していただける皆さまからの寄付を受け付けています。超少子高齢・人口減少社会などの社会課題に対し、「ひとりの想い」を大切に福祉実践を展開し継続した活動をするためには、皆さまの力が必要です。ぜひ活動へのご支援をお願いします。



ゆうゆうの今を伝える広報紙



# YOU YOU MAGAZINE

ゆうゆうマガジン



品川区立品川児童学園



YOU YOU MAGAZINE AUTUMN

2020/10 AUTUMN



## 品川事業部 移転から一年を迎えて

平成29年度に品川区から「品川区立品川児童学園」の指定管理を受け、令和元年10月からは新築の「品川区立障害児者総合支援施設」(愛称「ぐるっぽ」)において、既存の「子ども発達相談室」「児童発達支援」「保育所等訪問支援」「放課後等デイサービス」に加え「日中一時支援」「訪問系サービス」を開始しました。「入り江」をイメージして設計された建物には、地域の人たちに施設奥まで入り込み交流してもらいたいという願いが込められています。学園ゾーンには、ジグザグの廊下や屋内遊戯室の真ん中に大きな柱が鎮座しています。一般的な福祉施設のイメージと趣は異なりますが、それが子どもたちの想像力を掻き立て、自発的な動きや豊かな活動に繋がっています。新施設は4つの法人の連携により運営されています。(福)愛成会が運営する「生活介護」で企画した映画会に学園の子どもたちがお誘いを受けチケットを持って観に行くなどのコラボができるのも魅力です。職員には10名以上の大学生もおり、若者とのコラボもゆうゆうならではです。「ひとりの想い」を文化にし、「いちにち」にこだわり「いちにち」を編むという私たち法人のVision、Missionを品川でも取り組んでいます。



岩谷 ことほ

子ども発達相談室課長  
社会福祉士

近年、相談の内容や質が多様化してきています。医療の進化、多国籍家庭、ひとり親世帯、保護者の孤立、子育て力の低下や虐待を含む不適切養育など現代社会的課題を背景に持つ相談が増加しています。学園という枠の中に留まることなく、お子さんの取り巻く環境である家庭や基礎集団(保育所や学校等)、区内関係機関との積極的な連携・支援に努めており、今後も継続してソーシャルワークの視点を大切にしていきたいと思っています。



根本 満里愛

児童発達支援センター  
保育士・2年目

子どもたちは日々の療育の中で様々な姿を見せてくれます。表面的な行動で判断することなく行動の本当の意味を丁寧に読み取り、一人ひとりにあった働きかけを工夫していかなければなりません。それはとても難しいことですが、子どもたちの内面世界の豊かさに触れることができる素敵な仕事です。子どもの成長に喜びを感じ、温かい感心を寄せながら子どもと真に向き合う保育者になれるよう、これからも子どもと共に成長していきたいです。



## 芸術文化推進室 コロナ禍におけるフェスティバルの挑戦

10月3日4日に岩見沢市にて「日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル in 北海道ブロック」が開催されました。これは全国7か所で開催されるものですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から通常の集客型イベントを断念し、なおかつ北海道独自のカラーも出して「FMラジオ放送」「インターネット放送」「ドライブインシアター」「展覧会」と方式を大転換して実施しました。これまでと違ったスタイルでの開催となりましたが、結果的に普段岩見沢に来られない多くの人たちに見ていただくことができました。



展覧会「わたしの家、わたしの町」



パリアフリー映画×ドライブインシアター

こうした岩見沢市との協働を始めて5年が経ちます。松野哲岩見沢市長が福祉への取り組みに熱心であることが大きく、オール・ブリュットを共生社会の実現に向けた取り組みの一つとして、障害者の芸術文化活動の発信や場づくりを行っています。イベントは終了しましたが、展覧会は12/20まで開催中です。



フェスティバルをきっかけに岩見沢オール・ブリュットギャラリーがオープンしました。



FM AIR-G 特別番組  
「New Values ~障害者の文化芸術フェスティバル」



インターネット放送局より「当事者のリアル」

特設サイト <https://artbrut-hokkaido.jp/>

## オープンサロンGarden リニューアルOPEN

7月27日より、当別町障がい者総合相談支援センターnanakamadoと居宅介護支援事業所ハナミズキが平成18年から13年余りの長きに渡ってお世話になった弥生町商店街(山田靴店跡)から当別町共生型地域オープンサロンGardenへと移転しました。移転後のGardenでは「地域×福祉」の起点となるべく、学習支援事業や就労支援事業も同じ建物を利用して運営予定であり、地域の皆さまの様々な活動の場として、さらに利用していただけるよう準備を進めています。



「まちの身近な専門職」として、一人ひとりの小さなつぶやきを拾っていきながら、想いをカタチにするお手伝いを行います。また、年代や属性を問わない、自分のできる範囲やペースで働ける柔軟な就労支援の実施や、ふらっと立ち寄れるフリースペース運営、学習支援と地域行事のコラボ、多世代交流や安心できる居場所機能としての役割も果たしていきます。



「地域の方がふらっと立ち寄れる相談窓口」に、様々な機能が一体的に運営されることで、「支え」「支えられる」を越えた住民同士の関係性が生まれる拠点を皆さまと一緒に作りたくと考えています。

ぜひ、お気軽にGardenへお立ち寄りください。

## 共生型社会のミライ 当別町地域包括ケアシステムの現場から

「地域生活サポーター」が当別町で活躍するようになって3年目。町民同士が「お互い様」の気持ちで“助けられたり”“助けたり”を有償ボランティアとして仕組み化したものです。

今年のご縁があって、スウェーデンヒルズ町内会の皆さんと、地域で気になる方についてケース会議をしました。「人生100年時代『自分らしく生きるとは』ということも問われる」と伺いました。

町内には、人に迷惑をかけるのは申し訳ない、人に頼みごとをするのははばかれるという方がいます。そういった方には、有償ボランティアがさりげない距離感で寄り添っています。「これもお願いできる?」を発してもらえよう、今日も町内のどこかでボランティアが活躍しています。

公的なサービスはセーフティネットとして機能させていかなければなりません。その前段として、「お互い様」の仕組みで、人に頼ってもいいんだという経験を一緒にさせてもらっています。今年度は、「地域生活サポーター」を含む「当別町共生型ボランティア養成講座」をスウェーデンヒルズ防災センターを中心に開催する予定です。



生活支援コーディネーター  
石川あゆみ



スウェーデンヒルズ町内会の  
皆さんとケース会議

### 当別祭り

8月15日・16日に当別神社で行われた、当別祭り「みんなで楽しい縁日」に出店しました。当別町や北海道医療大学監修のもと、新型コロナウイルス感染症対策が実施された中での開催となりました。出展団体は少なかったものの、多くの方が来場し会場をにぎわせていました。当別就労支援部から焼きそば・ビールを、ペコペコのはたけからはおつまみセット・炊き込みご飯・ポテトフライ・コロッケを販売しました。お祭りは大盛況で終了し、最後にはサプライズ花火も上がり、お祭りが普通にできる日常を取り戻したいと思う、夏の終わりの2日間でした。



### 音楽鑑賞イベント

9月21日に弁華別小学校のグラウンドにて、当別中学校吹奏楽部のコンサートをしました。以前 amaririsu を利用していた吹奏楽部の生徒から、「コロナのため演奏する機会が減ってしまったが、お世話になった友達やゆうゆう職員に演奏を聴いてもらいたい」という想いを聞き、ゆうゆうと中学校が連携してコンサートを開催することになりました。感染症対策のため大々的に宣伝は行えませんが、ご本人と関わりのあった利用者、職員、弁華別町内の方など、約130名が来てくださりました。「みんなに成長した姿を見て欲しい!」という、ひとりの想いが叶ったコンサートとなりました。



### サポートクラブペこちゃん

ペコペコのはたけの開設当初から農園の管理や夏祭り、収穫祭といったイベントの企画・実践をボランティアで行っている「サポートクラブペこちゃん」。例年であれば、子どもから高齢者まで地域住民が一緒に出来る催しを考えてカタチにし、終われば反省会という名の宴会で英気を養っていましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で活動を自粛。そんな中、メンバーの方から「コロナだからこそ人と人の繋がりを大切にしたい」と話がありました。そこで、弁華別小学校の校庭で開催された「当別中学校吹奏楽部コンサート」の会場設営や車の誘導をお手伝いすることに。サポートクラブペこちゃんのみなさんは、自分の持ち場から嬉しそうに演奏を聴いていました。

